

朝の散歩が気力の原点

とりで
取手市長(茨城県) **藤井信吾**
Shingo Fujii



「水と緑」に恵まれた東京近郊都市 取手

取手市は茨城県の南端に位置し、都心へ40kmの距離にあります。平成27年の上野東京ライン開通により、取手駅から最短で、東京駅まで40分、品川駅まで49分という交通利便性に恵まれた都市です。南北方向にJR常磐線と国道6号、東西方向に関東鉄道常総線と国道294号が通り、茨城県南部の交通の要衝となっています。

平成17年に隣接する藤代町と合併し、新生・取手市となりました。面積は69・94km²、人口は10万7220人(令和元年8月現在)



岡堰の春の風景

で、利根川や小貝川などの豊かな自然や、のどかな田園風景が見られる一方、まちの中心部付近や鉄道駅周辺は市街化されており、東京都内に通勤・通学する市民も多く、豊かな自然と都市的生活のバランスが取れた住みやすいまちとなっています。本市は、令和2年10月に市制施行50周年を迎えます。「ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち とりで」を将来都市像として、市民協働のまちづくりを進めています。

11年半続いている毎朝の散歩

私は平成19年4月に取手市長のお役を頂きました。お酒を飲む機会の多さと運動不足に危機感を覚え、20年2月より毎朝60分のウォーキングを始めました。最初の数年は近くに住む支援者の先輩が付き合ってくれることもあって、自己都合で中止したり遅刻したりする訳にもいかず、生活に定着しました。雨天、早出出張、体調の変化等もあって厳密に毎日とはいきませんが、ほぼ日課となっています。

歩いているコースは、関東郡代伊奈半十郎忠治が築造した小貝川三堰せきの一つ、岡堰周辺の田園地帯です。年間を通じた景色の変化、川の流れ、空の美しさなど、歩いているだけで心にとっぷりと栄養をいただいております。自慢の散歩コースです。先日は水路のところで、コバルトブルーのカワセミの羽ばたきに出会えました。また別の日

は、もうもうとした霧の中を歩きました。が、あちらこちらのクモの巣がキラキラと輝き、幻想的な光景を楽しめました。

ウォーキングの愛好家をはじめ、菜園を耕す人、ラジコン飛行機を飛ばす人、バスフィッシングに興じる人など、皆さんと挨拶を交わし、たわいもないお話をするのも楽しみなことです。一時期は、運動の効果も重要視して、腕を大きく振り、足をツイストのように振り、速足で歩いていました。が、怖い顔をしてムキになって歩いていたなどと評されたので、最近は自然体で歩いております。



朝の散歩の様子(左側が筆者)

趣味のアコーディオン

大学生の時に始めたアコーディオンですが、仕事にかまけて放っておいた時期もありましたが、最近では、ちょっとした時間を見つけて練習をし、敬老会の時などに披露させていただいております。

藤山一郎さんや岡晴夫さんの唄う戦前戦後の歌謡曲が大好きだということもあり、レパートリーは懐メロが中心ですが、ここ2年程、シャンソンの古い形態である、ミュゼット様式の曲にも挑戦しています。



アコーディオンを演奏する筆者

この楽器の音の鳴る仕組みは、空気によるリードの振れを基にしています。そこは、ハーモニカと同じですが、一つの鍵盤に対して一つのリードだけでなく、少しピッチを上げたリードやピッチを下げたリード、1オクターブ下のリードを組み合わせて鳴らせるように設計されています。スイッチ選択で異なる音色を選べるようになっていきます。さらに、左手側のボタンが、低音部（ベース）や和音（コード）を分担します。アコーディオンのコードにはメジャー、マイナー、セブンス、デミニッシュがあります。左手のベースボタンとコードボタンを組み合わせて伴奏がなされることが多いです。

アコーディオンの難しさは、蛇腹を拡張したり、縮めたりしながらリードに空気を送って音を作ることにあります。蛇腹操作も左手になりますので、ボタン操作が複雑な時など蛇腹操作が不自然になって音がきちんと出せないなど、苦勞するところがあります。

また、アコーディオンのベースとコードから出る音は、弦楽器のような弾いた音ではなく笛のように鳴り続ける音ですので、その特性を踏まえた表現方法が求められます。人によっては、リズムセクションなどを用いて右手のメロディー部だけを演奏される方もいますが、アコーディオン独奏となるとベースとコードの音が重たくならないよう、右手のメロディーを壊さぬよう、

バランスを取るのが簡単ではありません。さて、私は大きな勘違いをしていました。練習を積み重ねれば上手になると思っていたのです。今思うと浅はかで愚かな考えです。音楽の演奏は、もって生まれたセンス以上のものは表現できないことに、なぜ気が付かなかったのだろうかと思ふ過去の自分が哀れになってきます。

では、なぜ下手でも、やり続ける意味があるのか。「自分の心模様が演奏の中に如実に結晶する」ことを通して、自分の素の姿を映し出す鏡に向き合い、身体と心の歪み、焦り、圧迫感とか、そういったものを客観視して、ありのままを捉える、そして、直視できないみつもめない自分からどう再スタートするのか、それをしみじみ、気付かせてくれるのが、趣味を持つ意義なのかなと思っております。

私も、4期目に入りました。周囲がお膳立てしてくれることに慣れてしまいがちです。プロデューサー、ディレクターとして組織戦を率いることも市長職務ではありませんが、プレーヤーとして冷や汗をかきながら、一步一步もがいていくことでしか腕は上がらないということは、仕事でも趣味でも共通なのかなと思っております。

アコーディオン演奏の様子については、動画共有サイトYouTubeでご覧いただけます。YouTubeのトップページで「藤井しんご」と検索するか、下のQRコードからもご覧いただけます。

